

研究課題名：人間とAIの融合による自己拡張システムの構築と拡張自己主観性の解明

研究者氏名 笠原俊一（株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 リサーチャー）



研究領域「社会課題を解決する人間中心インタラクションの創出」
（研究総括：葛岡 英明、2023年度発足）

研究の概要

本研究は、人間とAIの融合による自己拡張システムの構築と拡張自己主観性の解明を目指します。研究は、1)自己認識の変化、2)コミュニケーションの変化、3)社会規範への影響の3つの観点に焦点を当て、AI技術とインタラクティブシステムを統合し、拡張自己主観性に関して知覚認知、社会科学の視点から科学的検証を行います。研究を通じて、技術進歩に伴う社会課題を早期に把握し、科学的な根拠に基づく解決策の提案を目指します。

提案研究終了時の達成目標：人とAIの融合による自己拡張システムを構築し、自己主観性の拡張がもたらす自己認識・社会性の変容を明らかにする。

提案研究の独創性、新規性・優位性：国内では稲見自在化身体ERATOや、Cybernetic Avatarに関するムーンショットで身体の拡張と神経科学的解明、社会へ普及とその影響が研究されている。研究提案者は、該当プロジェクトへの参加経緯から”拡張自己主観性”が共通する重要要素であると認識しており、現段階では萌芽的な研究課題であり新規性がある。本研究の独創性はAI・インタラクティブシステム統合により、これまでにない検証を実現できる点である。本研究の優位性は、研究提案者自身が、拡張人間性に関わる多種のテクノロジーに精通し、複数の研究分野を理解するとともに、分野間のインタラクションを構築し、学術的な相互作用を生み出す素地を有していることにある。

提案研究の挑戦性：

拡張自己主観性に関する複数の分野に分割された議論に橋を架け、相互の理解と共通の言語を用い、実体験を踏まえて理論を構築する

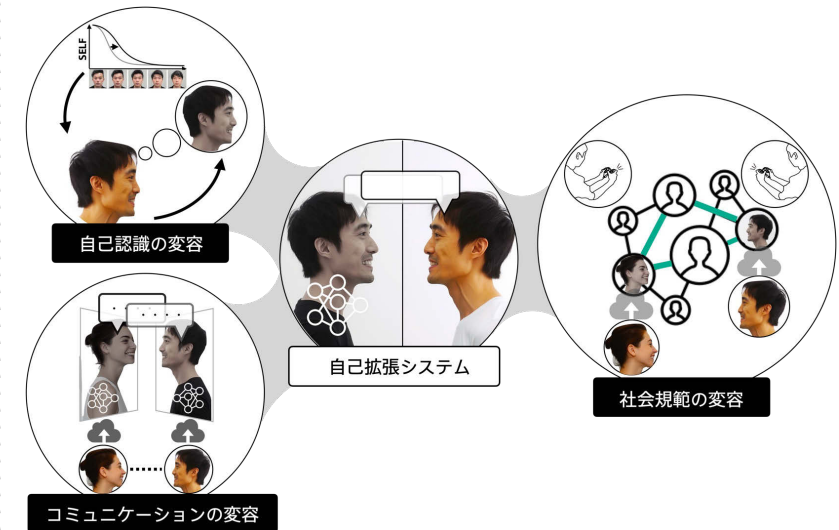
研究の将来展望

（1）学術研究としての、さきがけ研究成果の将来展開

拡張・生成自己の主体感およびアイデンティティや社会性に関する研究を多面的に行うことで、最終的に拡張自己主観性の理論体系構築を目指す。

（2）さきがけ研究成果と社会との将来の接点（新技術の創出・知的財産権の取得及び活用、又は社会普及・社会受容等）

AIとの関係性を単純に「使う・使われる」以上に捉え、ユーザーが主体的に関わっていくための科学的理解と工学的設計を明らかにし、テクノロジーと人間が相互に拡張する共進化を実現することで、人間を置き去りにしない、人間中心の技術研究を可能にすることが将来展望である。



本研究提案の概略図：

AI 技術とインタラクティブシステムの統合によって自己拡張システムを構築し、体験を通じて、1) 拡張自己による自己認識の変化、2) 拡張自己によるコミュニケーションの変化、3) 拡張自己の社会規範への影響に関して研究を行う。